



# 市民リポーター

## さすが犬の都

### 犬のマナーは日本一

リポーター 熊谷 勝郎さん (田代町3区)

我が大館市は、犬の都として自他共に認められておることは申すまでもございません。今後はドームを使用した全国的なイベントが開催される機会も多くなり、それに参集した人々が、散歩中の犬のマナーの良さに関心されて、さすが「犬の都」といわれるような日の到来を切望する者の一人でございます。少数家族化が進み、ペットが家族の一員としてかけがえのない存在で飼われている家庭も多いと思いますが、ただ可愛がるだけで、そのしつけは飼い主の責任

であるとの自覚はいかがでしょうか。散歩中の排せつ物の始末など、

次元の低いことが新聞に投稿されることは、ごく少数の飼い主と思いますが、残念でなりません。犬の研究者として厚生省の派遣で欧米の事情を調査された大館保健所 主席専門員、茂木利夫さんから犬のしつけ方などをお聞きしました。

#### ■正しい犬の「しつけ」「飼い方」

1. 「かわいい」「美しい」など、外観だけで犬種を選ばない。必ず自分の飼育目的、体力に合い、しかも、生活環境になじめる犬種を選ぶこと。(性格と改良の歴史を十分に理解する。)

2. 30〜40日の早期に親及び同腹犬から離別された子犬は、社会性行動が発達しなく、攻撃性または他の問題行動が発生する。(欧米では早期離別を厳しく規制している。)

3. 犬の「しつけ」「管理」は子供に任せない。必ず大人が犬のボスの存在で厳しく行う。(犬の問題行動は子供の影響が

大きい。)

4. 犬が社会の一員として共存できるように飼う。公園など公共の場では縄張り意識を持たせない。(写真1、2参照)(しつけ教室などで犬の習性を充分理解する。)



写真1. ウィーンのパーク

縄張り意識がなく、犬同士も自然に近づいていきます。



写真2. 長木川河川敷公園

縄張り意識が強いため、一定の距離を保ち、警戒しています。

#### ■犬にかみつかれない術

人が犬の習性を理解し、飼い主が犬のしつけに責任を持てば、犬は普通、人をかんだりしないものです。かむ事故の多くは、犬の習性を知らずに犬を驚かせて発生しています。

#### ■犬の習性と対処の方法

1. 犬には自分の縄張り(テリト

リー)がある。敷地内に入る人や動物を警戒するので、訪問先で犬に声を掛けても攻撃的な場合は、無理に入らずに家の人を待つ。

2. 犬は逃げるものを追う習性がある。犬の前を通るときは走ったりして犬を刺激せずに通り過ぎる。

3. 飼い主に従順な犬でも他人には警戒心が強く、特に子犬が付いている場合、また見なれない服装や「ほかぶり」など、変わった格好には攻撃的となる。

4. 犬好きの子供は急に手を差し出すことがあるが、犬は近視眼のため驚いてかむ場合もある。犬の表情は耳の動き、尾の振り方で察知できる。

#### ■犬の飼い主の責務

1. 犬は放し飼いにしない。毎日の運動でストレス解消、健康管理をする。

2. 町の中で犬を連れて歩く場合は、犬の嫌いな人もいることを念頭に置き行動する。

3. 犬は生涯一回登録、狂犬病予防注射は、毎年一回必ず受ける。

4. 犬小屋は、通行人に犬が飛びつくことのない、日当たり良く、家族の姿が見えて、犬の安心する場所へ設置する。



大館市職員に取材中の熊谷リポーター(左)